

じりっかつどう 自立活動部だより



第2号

令和5年5月15日

じりっかつどう 自立活動について





「勉強の仕方がよく分からない」「整理整頓が苦手」「言われたことをすぐに忘れてしまう」「先生の説明がよく分からない」「数学の図形の学習が苦手」「板書を写すのが遅い」などの困り感がある人はいませんか？

本校では、アセスメントの1つとして「WISC-IV」という知能検査をもとに、いろいろな困り感を支援するための手立てを考えています。お子さんが中学校の3年間または本校で受けた「WISC-IV」の結果（数値）はお分かりでしょうか？もしご存じでない場合は、担任までお知らせください。


WISC-IV知能検査について

知的能力全般とともに、知的能力の機能を分析的に見て、ひとりの生徒の様々な能力の側面がどのように発達しているか、個人内における発達の様相、バランス（個人内差）を知ることができます。

【WISC-IVでわかること】





| | |
|--|---|
| <p>全検査 IQ</p>  | <ul style="list-style-type: none">・4つの指標の評価点を合成し算出された数値。その子どもの全般的な知的発達が、同年齢の中でどのくらいの水準なのかが推定できます。・100が平均。しかし、誤差を含めた範囲で知能をとらえるため「平均-平均の下」というように記述されることもあります。・全検査 IQ の結果だけでその子の知的水準をとらえず、4つの指標それぞれの結果を十分検討することが必要です。 |
| <p>言語理解 (VCI)</p>  | <ul style="list-style-type: none">・言葉が意味する内容を理解する力、語彙の知識、言葉による推理力、言葉による知識の習得力など。社会的ルールや一般知識は言葉によって理解するため、生活と密接に結びつく力です。・聴覚機能（聞く力）や音声言語の表出（話す力）とも関係が深いです。・学校生活では、教科書や資料の解読、板書の書き写し、教師からの発問の理解や回答、教師からの指示や話などは言葉を介して行われるため、学習と大きく関係する力です。 |
| <p>知覚推理 (PRI)</p>  | <ul style="list-style-type: none">・視覚情報の処理、非言語（視覚）情報による理解や推理などの力。・学校生活では、図表や絵の理解、視覚的イメージでとらえる、具体物の操作、空間認知、地図の読み取り、机・ロッカーなどの整頓、必要なものを見つける、などの「視覚的な処理」と関連が深いです。・推理力、応用力、新規場面での問題解決力、作業手順や段取り力、法則性の発見力、不慣れな場面での予測力などの「流動的な推理力」とも関連しています。 |
| <p>ワーキングメモリー (WMI)</p>  | <ul style="list-style-type: none">・情報の一時的な保持と処理システム。・学校生活では、読む、書く、話す、計算する、想像する、会話する、意思決定するなどの場面で、あらゆる知的活動を支えています。・注意力や集中力、衝動性にも関連します。 |

裏面へ続きます

| | |
|---|--|
| <p>処理速度 (PSI)</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・視覚情報を速く正確に判断し、その結果を速く正確に書く力を反映します。 ・思考の柔軟性や思考の切り替えにも関連します。 ・読み書き、作業の速さ、正確さ、対人関係の柔軟性につながります。 |
|---|--|

【WISC-IVの結果を支援に活かす】

4つの指標の中で、弱い部分、苦手な部分が見つかったら、どのような支援が有効でしょうか。
以下の支援例を参考にしてください。

| | |
|---|---|
| <p>言語理解が弱いとき</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・大事な言葉や難しい言葉の意味は、前もって説明したり、板書しておいたり、プリントにしておく。 ・読みにくい漢字、新しい漢字には、最初はフリガナをつけて覚えさせる。 ・新しい単元に入る前に、新しい言葉を調べさせておく。 ・言葉による説明よりも、絵や図で教えたり、モデルを見せたり、具体物を操作させたりする。 <p>※言語理解の困難が強いと、学習でのつまずきが出やすいです。そんなときには、取り出し指導、小人数指導、放課後指導、通級指導などの個別指導が望まれます。</p> |
| <p>知覚推理が弱いとき</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に提示する資料、掲示物の数を減らし、シンプルなものにする。 ・視覚情報を言葉に置き換えて説明。 ・板書をプリントにして配る。 ・ワークシートはマス目入りを使う。 ・平面や図形の学習では具体物を準備する。 ・手順を具体的に言葉で教える。 ・手順を自分の言葉で言わせる。 ・見通しと目標を説明する。 ・作業の時間を十分に与える。 ・時間割や今日の予定を板書する。 ・片付けが苦手なので、箱やしきりを使用させる。 |
| <p>ワーキングメモリーが弱いとき</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・記憶を助けるために、本人が確認できる手がかりを用意する。 ・口頭による指示は短く、簡潔に、何回も繰り返す。 ・指示や説明は、できたらプリントなどにしておく。 ・次は何をするのか思い出させる。 ・手順やその日の予定を板書する。 ・次の活動に入るときには机上进行を片づけさせ、気が散らないようにする。 |
| <p>処理速度が弱いとき</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・作業の時間を与え、急かさないようにする。 ・量より質を評価する。 ・書く課題ではなく、言葉で答える課題にする。 ・限られた時間内での優先順位を指導する。 ・ICT機器を活用する。 ・時間配分や計画の立て方を指導する。 ・気持ちの切り替えの弱さと関連するので、クールダウンの時間を与える。 |

今後の学習や生活に、上記の手立てを役立てられると、困り感が減っていろいろなことが楽しくなるはず！